

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年3月23日

学校教育目標

より良いものを求めて創り出す生徒の育成

- ・意志の強い生徒
- ・心身の健全な生徒
- ・知性と感性の豊かな生徒

教育方針

すべての子どもたちが安全で、安心できる居場所としての学校に

- 1 生徒が主役、居場所のある学校づくり
- 2 生徒が主体となり、協働する授業実践
- 3 信頼される学校づくり
- 4 チームによる学校づくり

1. 本年度の重点目標

1. 豊かな人間性の育成

(1) 豊かな人間性の育成をめざす活動

- ・多様な他者を尊重し、より良く生きようとする態度の育成
- ・道徳授業の充実と適切な評価手法の確立
- ・先輩から後輩へ伝統をつなぐ生徒会活動や部活動の充実（自己肯定感、自己有用感の醸成）

(2) 安心した学校生活を送るためのきめ細かな生徒指導の取組

- ・安全で、安心できる居場所としての学校・学年・学級づくり
- ・いじめ防止や命を大切にする取組を充実させ、未然防止と早期発見でスピード感のある対応
- ・規範意識の醸成とネットモラル指導の充実

2. 確かな学力のはぐくみ

(1) 子どもの学びを軸とした確かな学力の定着

- ・主体的・対話的で、深い学びを推進し、「分かる・できる・楽しい授業」づくりの充実
- ・生徒が「伸び」を実感し、教師が指導の改善・充実につなげる評価の推進
- ・学習に困り感をもった生徒への粘り強い対応

(2) 自律的な学習者を育む取組

- ・見通しと振り返りのある授業づくりと、言語活動の充実
- ・家庭と連携し、計画的な家庭学習の習慣づくりを援助
- ・将来の社会的・職業的自立の基盤となるキャリア教育の推進

3. 健やかな心身の育成

(1) 積極的に身体の健康保持を図る態度の育成

- ・自ら進んで運動に親しみ、楽しいと感じる運動機会の提供（授業、レク、行事、休み時間等）
- ・学年段階に応じた、心身の健康保持に努めるための保健指導の充実（薬物、性教育等）
- ・家庭との連携し、望ましい食生活の啓発とアレルギーへのきめ細かな対応

(2) 心の安心をはぐくむ教育相談機能の充実

- ・定期的な教育相談やアンケートの活用で、生徒の困り感を早期発見し、スピード感のある対応
- ・学びの支援委員会による不登校生徒、学校に馴染めない生徒への対応と居場所づくり

4. 特別支援教育の充実

(1) 個に応じた指導の充実

- ・学びの支援委員会による生徒一人一人のニーズの把握と情報の共有化
- ・小学校との引継の円滑化による9年間の学びの継続支援体制の構築
- ・特別支援学級と通常学級の様々な交流とインクルーシブ教育の実践

5. 信頼される学校づくり

(1) 学校組織の活性化と経営参画意識の高揚

- ・教職員の同僚性を生かした学校運営と、教育のプロとしての参画意識の向上
- ・校内研修の充実と外部研修への積極的参加と校内への還元の促進

(2) 信頼される学校づくり

- ・保護者や地域が参加できるオープンスクールの促進（授業参観、健全育成講演会など）
- ・ホームページやお便りを通じた学校生活の「見える化」の工夫と確かな学校評価及び改善
- ・社会に開かれた教育課程をめざし、校区小学校や地域との連携・協働

(3) 安全で安心な学校管理

- ・危機管理の充実及び防災管理の外部との連携の見直し
- ・教育公務員として服務規律の遵守
- ・健康診断やメンタルヘルスの活用で教職員の健康増進（活力ある職員室づくり）

2. 方針の重点化

明園中学校は、平成8年度に学校教育目標を改訂し、「より佳いものを求めて創り出す生徒の育成」を教育活動の中心に据えている。この理想とする生徒像の実現のために、年度ごとに教育の方針、重点等を定めて、教育活動を進めている。

本年度は、具体的な教育活動の指針として、上記5項目の重点目標を掲げ、具体的な活動項目（学校評価の観点）を設定し、本校の教育活動について、教職員が具体的な目標や課題を共有した上で、一年間の教育活動に当たることとした。

3. 自己評価結果

【達成状況】A:十分である, B:概ね十分である, C:不十分である

分野	学校評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな人間性の育成	豊かな人間性の育成をめざす ・多様な他者を尊重し、より佳く生きようとする態度の育成	A	学校生活全般をを通じて、多様な他者を尊重することで、自己についてもより佳く生きる力を培う。	A	A
	活動 ・道徳授業の充実と適切な評価手法の確立	A	今年度より教科化した道徳の授業において、ローテンション道徳の充実と生徒の変化を見とる評価の着実な定着を図る。	A	A
	豊かな人間性の育成をめざす ・先輩から後輩へ伝統をつなぐ生徒会活動や部活動の充実（自己肯定感、自己有用感の醸成）	B	上級生が下級生の憧れの存在となるように自治的活動を支援し、自己肯定感・有用感の育成ための実践を取り入れる。	B	A
	の安心めし細やかな校生生徒活指を送る取組 ・安全で、安心できる居場所としての学校・学年・学級づくり	A	お互いの違いを認め合う受容的雰囲気、あらゆる子どもたちの居場所がある学校・学年・学級づくりで、安心して過ごすことができるようにする。	A	A
	細やかな校生生徒活指を送る取組 ・いじめ防止や命を大切に取る取組を充実させ、未然防止と早期発見でスピード感ある対応	A	コミュニケーション巡視・年3回の教育相談で、いつでも相談できる体制づくりとスピード感ある対応を推進する。	A	A
	の安心めし細やかな校生生徒活指を送る取組 ・規範意識の醸成とネットモラル指導の充実	B	警察や民間会社等、外部の力を借りながら情報モラルの徹底を図る。また、礼儀やきまりなど、基本的な生活習慣を培う取組を一層進める。	A	A
学校関係者評価委員による意見					

確かな学力のはぐくみ	子どもの学びを軸とした確かな学力の定着	・主体的・対話的で、深い学びを推進し、「分かる・できる・楽しい授業」づくりの充実	A	令和3年度の学習指導要領全面実施に向け、主体的に生徒が学び、特に、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進する。	A	A
		・生徒が「伸び」を実感し、教師が指導の改善・充実につなげる評価の推進	B	適切な評価は、授業の改善・充実から行われ、生徒自身の「伸び」を実感することにつなげていく。	B	A
		・学習に困り感をもった生徒への粘り強い対応	B	生徒の習熟度に応じた継続的な援助としてTT授業や放課後、長期休業中などを活用した取組を実施していく。	B	A
	自律的な学習者を育む取組	・見通しと振り返りのある授業づくりと、言語活動の充実	B	生徒自らが課題を把握し、主体となって課題探究的な学習に取り組み、わかったことを表現していく。	B	B
		・家庭と連携し、計画的な家庭学習の習慣づくりを援助	B	計画的な家庭学習の習慣づくりを支援するために、記録ノートを活用し、家庭との連携を図る。	B	A
	・将来の社会的・職業的自立の基盤となるキャリア教育の推進	A	各学年において、総合的な学習の時間を中心に、キャリア教育を推進し、将来への自立の基盤づくりに取り組む。	A	A	
学校関係者評価委員による意見						
健やかな心身の育成	積極的に身体を健康保持を図る態度の育成	・自ら進んで運動に親しみ、楽しいと感じる運動機会の提供（授業、レク、行事、休み時間等）	A	休み時間の運動の奨励、体育の時間の補強運動の継続、体育的行事の実施などで体力向上を目指す。	A	A
		・学年段階に応じた、心身の健康保持に努めるための保健指導の充実（薬物、性教育等）	A	外部講師を招聘して、発達段階に応じた保健指導を随時行い、将来にわたる健全な心身の育成に繋げていく。	A	A
		・家庭との連携し、望ましい食生活の啓発とアレルギーへのきめ細かな対応	A	健康的で望ましい食育習慣の啓発と、適切なアレルギー対応を推進していく。	A	A
	心の安心を育む教育相談機能の充実	・定期的な教育相談やアンケートの活用で、生徒の困り感を早期発見し、スピード感のある対応	A	教育相談、アンケートに基き、生徒の困り感、いじめなどの状況を把握し、情報を共有し、組織的な対応を図っていく。	A	A
・学びの支援委員会による不登校生徒、学校に馴染めない生徒への対応と居場所づくり		A	生徒の居場所づくりの一環として、不登校生徒の対応として、ハートピア登校を推進し、学級復帰も含めた個別プログラムを実施している。	A	A	
学校関係者評価委員による意見						

特別支援教育の充実	個に応じた指導の充実	・学びの支援委員会による生徒一人一人のニーズの把握と情報の共有化	A	年5回学びの支援委員会を開催し、通常学級において支援の必要な生徒の把握と、本人や保護者との情報共有を推進する。	A	A
		・小学校との引継の円滑化による9年間の学びの継続支援体制の構築	B	中学校3年間だけでなく、義務教育9年間の支援体制の構築のため、小学校との綿密な引継を行う。	B	A
		・特別支援学級と通常学級の様々な交流とインクルーシブ教育の実践	B	特別支援学級の生徒の要望に応え、通常学級との交流を円滑に進める。また、インクルーシブ教育についての理解を深めていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見						
信頼される学校の創造	経営参画意識の活性化の高化と	・教職員の同僚性を生かした学校運営と、教育のプロとしての参画意識の向上	B	「安心・安全」「生徒の居場所づくり」を合い言葉として、全教職員による経営参画意識をもち、プロ意識を向上させる。	A	A
		・校内研修の充実と外部研修への積極的参加と校内への還元促進	A	年3回の校内研修と外部研修の参加で、学び続ける教師集団作りを推進する。	A	A
	信頼される学校づくり	・保護者や地域が参加できるオープンスクールの促進（授業参観、健全育成講演会など）	A	年4回の授業参観や学年・学級PTAなど保護者の来校機会を増やす取組を促進していく。	A	A
		・ホームページやお便りを通じた学校生活の「見える化」の工夫と確かな学校評価及び改善	A	学校ホームページや学校だより、学年だよりを利用し、生徒の活動の様子を積極的に「見える化」していく。	A	A
		・社会に開かれた教育課程をめざし、校区小学校や地域との連携・協働	A	学校見学、部活動体験、授業公開等の小中交流など、青少年健全育成や学びの支援、防災という視点から、小学校・地域との連携を深めていく。	A	A
	安全で安心な学校管理	・危機管理の充実及び防災管理の外部との連携の見直し	A	「安全・安心」という最重要項目の維持のため、防災管理も含めた、校内における危機管理体制の見直しを推進する。	A	A
		・教育公務員として服務規律の遵守	A	「100-1=0」という高い倫理意識に基づいた行動で、服務規律の遵守の徹底を図る。	A	A
		・健康診断やメンタルヘルスの活用で教職員の健康増進（活力ある職員室づくり）	A	心身ともに健全な教職員集団づくりのために、健康診断やメンタルヘルスの積極的な活用を推進する。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見	コロナウイルス感染症対応で大変だと思いますが、頑張ってください。教職員の皆さんこそ健康に十分留意され、子どもたちを守ってくださることを願っております。				